

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
国際ホテル・ブライダル専門学校		平成16年1月16日		星野 徹		〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通7番町935 NSGスクエア4階 (電話) 025-227-5600		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人国際総合学園		昭和32年10月10日		池田 祥護		〒 951-8063 (住所) 新潟市中央区古町通2番町541 (電話) 025-210-8567		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	文化・教養専門課程		葬祭ディレクター科		平成16(2004)年度		-	
学科の目的	葬祭分野に求められる専門教育を行い、高度な専門技術、技能を習得させ、ホスピタリティ精神溢れる有意な人材の育成・輩出を通して、地域社会・国家・国際社会の発展に寄与・貢献することを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	葬祭業界のあらゆるシーンに対応するために必要な専門知識、技術、業界で不可欠なホスピタリティ・マインド等を実践を通して身につけます。【取得可能な資格】葬祭ディレクター技能審査2級、終活カウンセラー2級検定、営業力強化検定、こころ検定4級など							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		62 単位		27 単位	29 単位	6 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
20 人	19 人		0 人		0 %	0 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 5 人							
	■就職希望者数(D) : 5 人							
	■就職者数(E) : 5 人							
	■地元就職者数(F) : 4 人							
	■就職率(E/D) : 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 80 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %							
	■進学者数 : 0 人							
	■その他							
	なし							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無							
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
	評価団体: なし		受審年月: なし		評価結果を掲載したホームページURL			なし
当該学科のホームページURL	https://www.wish-web.com/gakka_hotelbridal.html							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				0 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
	うち必修授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				0 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				0 単位時間			
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				83 単位			
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				12 単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				31 単位			
うち必修単位数				54 単位				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				2 単位				
うち企業等と連携した必修の演習の単位数				22 単位				
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				5 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				1 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				0 人			
	計				1 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
専門分野に必要なスキルや知識を身につけるとともに、社会で活躍できる人材を育成するために、企業や協会が委員として参画し教育課程の編成において、より実践的な職業教育指導を連携して行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会で業界のニーズや授業内容を確認・審議したあと、委員会で出た意見は学校長に提出し、学科会議・教務会議で審議。最終的に学校長が承認することで次年度カリキュラムに反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
齋藤 毅	新潟県葬祭業協同組合 理事長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	①
渡辺 安之	株式会社花安 代表取締役	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	③
竹内 正明	国際ホテル・ブライダル専門学校 副校長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	—
藤田 愛子	国際ホテル・ブライダル専門学校 教務部長	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年9月16日 10:00～10:30

第2回 令和8年3月16日 13:30～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会では、業界の人材不足もあり義務教育化で不登校を経験している学生も就職するケースが増えているが、そういった学生への教育に時間がかかることが多く、現場が疲弊してしまっている現状があるとのこと。また、お客様から求められるレベルが上がっている中で、そういったスタッフでは対応が難しい問題もあり、企業としても対応に苦慮しているとのこと。

学校としては引き続き、学生指導について専門知識だけでなく、社会人として基本的な「上司との信頼関係づくり」や「メモを取る、挨拶をする」などの行動が取れる人材の育成を目指すこととする。また卒業した学生へのフォローなど、今後も企業との連携を継続していくこととする。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校におけるインターンシップは、学生自ら希望する分野に関連した企業等での就業体験を通して、仕事をする意味を認識し自らの適正を見つめながら将来像を選定することにある。専門学校生としての実学を身に付け、有能な「人財」として活躍できる人材育成を目指す。学生は実社会での経験を重ねることにより、将来像や責任感・自分の役割やレベルなどを実感し、自らのキャリア形成について具体的なイメージを描くようになることを目指す。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

事前に企業とインターンシッププログラムの内容を協議し、実施する。学生を教育的視点で受け入れられる企業等を求め、その企業と本校の協力により、一人前の社会人を育てる社会の場として位置づける。1年次7～8月の約1週間葬儀社などで実施。提携先は毎年15社程度。「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の社会人基礎力を中心に研修終了時に企業から評価を受ける。12月の約1週間葬儀社などで実施。スタッフから葬儀現場を体験させてもらうことで、希望職種への理解を深める。

②「学内での実習」

葬祭企業で必要とされる知識、技術、技能を習得するために、業界人を講師として実践的な職業教育（「業界セミナー」「司会実習」「納棺実習」「接遇・受注実習」「幕張・祭壇設営実習」など）を実施している。授業終了時には制限時間一人ひとり発表するなどして評価を受ける。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ホスピタリティコミュニケーション	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	よりスムーズなコミュニケーションを取るためのスキルを身につけ、初級検定を受験する。	一般社団法人日本ホスピタリエ協会
公衆衛生学	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	遺体からの感染症や処置に関する知識を身につける。	有限会社花久葬祭
接遇・受注演習	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	葬儀の打ち合わせにおいて求められるマナーや商品知識などを学ぶ。	アークベルグループ
葬祭フラワー演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	生花祭壇の設営方法やアレンジの手法を実践で身につける。	アトリエ モーイ ブルーム
祭壇設営・幕張演習	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自宅飾りを基本とした祭壇設営や幕張の施術を学ぶ。	株式会社ビップ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

国際ホテル・ブライダル専門学校「研修等に係る諸規程」に基づき、本校の教員は専門分野において、最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されている。そのため、法人本部及び外部機関と連携し全教員が学生指導力向上のために各自「教員資質」、「能力」、「専門力」を高めるよう務めなければならない。校長及び上長は企業等で実施される研修情報を収集すると共に、各教員の経験、スキル、能力を勘案し必要な研修への参加を命ずる。また外部講師を招いた学内研修も計画的に実施する。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	成長する葬儀社のためのセミナー～葬儀社経営の羅針盤～	連携企業等:	株式会社エンディング総研
期間:	2025年10月31日	対象:	葬儀社経営者
内容	管理職を取り巻く環境の変化を理解し、多様なメンバーを輝かせるマネジメントを学ぶ		
研修名:	場を開いて、恩を送る～人が集まるのは”安心できる場所”～	連携企業等:	新潟市仏教会
期間:	2026年5月15日	対象:	葬儀業界、寺院
内容	人とのつながりを通して自分を見つけ、地域貢献に繋げる実践法		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	対人コミュニケーションとプレゼンテーション	連携企業等:	NSGホールディングス
期間:	2025年9月10日	対象:	管理職
内容	コミュニケーションスキルの修得		
研修名:	メンタルヘルス×自己肯定感研修	連携企業等:	NSGホールディングス
期間:	2026年2月25日	対象:	全職員
内容	セルフケアと自己肯定感を高める実践法		
研修名:	障害がある学生との関わり方について	連携企業等:	NSGホールディングス
期間:	2026年3月25日	対象:	教職員
内容	障害のある学生対応、関わり方について学ぶ		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	葬祭経営研究会(8月例会)	連携企業等:	金川経営コンサルティング株式会社
期間:	2026年8月28日	対象:	葬祭業者
内容	葬祭企業の取り組みを学ぶ		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	マネジメント研修	連携企業等:	NSGホールディングス
期間:	2026年10月22日	対象:	教職員
内容	リーダーシップの基礎を学び、自己能力の棚卸を行う		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

より実践的な職業教育にかかる活動を評価し、改善・支援することにより、学生が関係業界のニーズを踏まえた質の高い職業教育を享受できるよう学校運営の改善と発展を目指した学校評価を行うことを目的とする。学校が実施している学生向上アンケート、学生意識調査、保護者アンケート等の資料に基づく自己評価に対して、学校関係者評価委員会からの評価結果を教育活動その他学校運営の改善に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 学生の受け入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己評価報告書に対する学校関係者委員会の意見をもとに、学校運営及び教育活動に活用している。学校関係者委員会の意見、評価結果は報告書としてまとめ、教職員にも開示し意見や改善策を提案させる等を行い、対応を検討後可能なものは実施している。具体的には学校関係者委員会の提言により、「学校通信をSNSを使って保護者用に発信する」「個人で見つけてくる教職員研修の推進」「国内外資系ホテル研修」等が検討、実施されている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
高野 潤	ホテルイタリア軒 総支配人	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
関根 伸春	新潟日米協会 参与	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
河谷 由理江	卒業生	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.wish-web.com/openinfo.html>

公表時期: 2026年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・教育機関として、その教育活動や取り組みについて企業等へ説明責任を果たす。
- ・教育活動等の情報公開を通じて、本校の教育の質的向上を図る。
- ・学校全体の状況は把握できるような情報を提供することで、関係業界等との連携・協力による本校の教育活動の改善や、本校に対する社会全体の信頼を得る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校が概要、目標
(2) 各学科等の教育	学科、コース紹介
(3) 教職員	講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	インターンシップ、就職サポート、業界で活躍する卒業生
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパルライフ
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	入試・学費について、各種奨学金・教育ローン
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10) 国際連携の状況	キャンパルライフ・海外研修旅行
(11) その他	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://www.wish-web.com/openinfo.html>

公表時期: 2026年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 葬祭ディレクター科)														
	分類		授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法		場所		教員		企業等 との連携
	必修	自由 選択						講 義	演 習	実 験・ 技 術・ 実 習	校 内	校 外	専 任	
1	○		クラスキャリアデザインⅠ	学校生活を送るためのルールを知る。仲間づくりを通して、コミュニケーション力を高める。	1 全	##	4	○			○		○	
2	○		コースキャリアデザインⅠ	コースごとに取り組む授業やイベント、実習などのルールを知る。	1 全	40	1	○			○		○	○
3	○		クラスキャリアデザインⅡ	社会人になる前の準備を行う。自分の将来を考え、社会人としてのキャリアデザインを行う。	2 全	60	2	○			○		○	
4	○		就職対策Ⅰ	自己分析や目指す業界の動向・企業研究を行い、就職活動に向かって準備を整える。	1 全	80	2	○			○		○	
5	○	##	ビジネス実務Ⅰ	身だしなみや姿勢、振る舞いなど基本的なビジネスマナーを実践で身につける。	1 前	16	1	○	△		○		○	
6	○		ビジネス実務Ⅱ	ビジネスメールや履歴書等文章の作成のやり方を学び、実践で身につける。	1 後	16	1	○	△		○		○	
7	○		ビジネス実務Ⅲ	名刺交換や電話応対など、ビジネスシーンで求められる礼儀や所作を修得します。	2 前	30	1	○	△		○		○	
8	○		コミュニケーション	よりスムーズなコミュニケーションを取るためのスキルを身につけ、初級検定を受験する。	1 前	20	1	○			○		○	
9	○		ソフトウェア活用実習Ⅰ	アカウントやメールの設定など、パソコンの基本的な使い方を身につける。	1 前	16	1		○		○			○
10	○		ソフトウェア活用実習Ⅱ（Word検定対策）	ビジネス文書の作成等に必要なパソコンスキルを学び、Word検定を受験する。	1 後	18	1		○		○			○
11	○		ソフトウェア活用実習Ⅲ（Excel検定対策）	グラフ作成やデータベース等操作のスキルを学び、Excel検定を受験する。	2 前	30	1		○		○			○
12	○		日常英会話Ⅰ	習熟度別に英語教材を使用し、日常英会話を学ぶ。	1 前	20	1		○		○			○
13	○		日常英会話Ⅱ	習熟度別に英語教材を使用し、日常英会話を学ぶ。	1 後	20	1		○		○			○
14	○		日常英会話Ⅲ	習熟度別に英語教材を使用し、日常英会話を学ぶ。	2 前	20	1		○		○			○
15	○		SNSマーケティング	SNSを活用した広報の手法や企業の取り組みを学び、実践で身につける。	2 後	30	1	△	○		○			○
16	○		海外研修旅行	現地の施設見学・講義、業務体験などを通じて、国際理解、異文化交流を学ぶ。	2 後	60	2			○		○	○	
17		○	地域活性化活動	東地区公民館主催事業へのボランティアに参加する	1 後	30	1			○		○	○	○
18	○		葬儀の意味を学ぶ	なぜ葬儀を行うか、葬儀の役割を行う意味を学ぶ。	1 前	20	1	○			○		○	
19	○		実際の葬儀の流れを学ぶ	臨終から法要までの一般的な流れを学ぶ。	1 前	30	1	○			○			○
20	○		葬儀の宗教儀礼を学ぶ	葬儀における宗教儀礼や宗派別の作法などを学ぶ。	1 後	16	1	○			○			○
21	○		手話演習Ⅰ	手話の基本を学び、相手を理解しようとする思いやりの気持ちを育む。	1 全	16	1		○		○			○
22	○		葬祭フラワー演習Ⅰ	生花の管理や扱い方を実践で身につける。	1 前	16	1		○		○			○
23	○		グリーフサポートⅠ	悲嘆（グリーフ）の意味や遺族の感情・行動について、事例をもとに学ぶ。	1 後	16	1	○			○			○
24	○		基礎心理学を学ぶ	認知心理学・社会心理学について学ぶ。	1 後	16	1	○			○		○	
25	○		ストレスと心の健康	生理心理学・感情心理学・知能について学ぶ。	1 全	16	1	○			○		○	
26	○		基本キーワードで学ぶ心理学	学習心理学・知覚心理学について学ぶ。	1 後	16	1	○			○		○	

27	○		伝える力を伸ばす	自分なりの言葉や表現方法を知り、他者に伝える力を実践で身につける。	1前 30	1		○		○		○					
28	○		納棺演習	ご遺体への着せ替えの仕方を実践で身につける。	1前 20	1		○				○					
29	○		葬祭ディレクター技能審査幕張課題を知る	2年次に受験する技能審査の実技試験内容を知る。	1前 16	1		○				○				○	○
30	○		葬祭ディレクター技能審査接遇・司会課題を知る	2年次に受験する技能審査の実技試験内容を知る。	1後 16	1		○								○	○
31	○		ホスピタリティ産業論	ホテル・ウエディング・葬祭各分野の基本知識や業界の取り組みを知り、目指す姿を見つける。	1前 16	1	○					○				○	
32	○		ファッション入門	チーム・グループ活動でお互いの信頼関係を構築するためのスキルを身につける。	1後 16	1		○								○	○
33	○		葬儀の歴史を学ぶ	日本の葬儀の歴史を学ぶ。	2前 20	1	○					○				○	
34	○		葬儀の習俗・風習を学ぶ	日本の葬儀の風習や地域の習俗を学ぶ。	2前 20	1	○					○				○	
35	○		葬儀に関連する法規税務を学ぶ	日本の葬儀に関連する法律を学ぶ。	2後 16	1	○									○	
36	○		公衆衛生の基本知識を知る	葬儀に関わる公衆衛生の基本を学ぶ。	2後 16	1	○									○	
37	○		手話演習Ⅱ	手話の幅広い表現力を学び、実践を通して身につける。	2全 16	1		○				○					○
38	○		祭壇設営・幕張演習	自宅飾りを基本とした祭壇設営や幕張の施術を学ぶ。	2全 30	2		○				○				○	○
39	○		接遇・受注演習	葬儀の打ち合わせにおいて求められるマナーや商品知識などを学ぶ。	2全 30	2		○				○				○	○
40	○		司会演習	式典の運営や進行方法、話し方の技術などを身につける。	2前 24	1		○				○				○	○
41	○		葬祭フラワー演習Ⅱ	生花祭壇の設営方法やアレンジの手法を実践で身につける。	2全 16	1		○				○				○	○
42	○		公衆衛生学	遗体からの感染症や処置に関する知識を身につける。	2後 16	1	○					○				○	○
43	○		ファッション応用	チーム活動において、一緒に課題解決やアイデア想像などの成果を出すためのスキルを身につける。	2前 16	1		○								○	○
44	○		マーケティングを学ぶ	マーケティングの基礎知識やプロジェクトマーケティングの考え方を学ぶ。	2前 16	1	○					○				○	○
45	○		グリーフサポートⅡ	遺族の思いを聴くための心構えや具体的な関わり方を学ぶ。	2前 16	1	○					○				○	○
46	○		営業の基本を学ぶ	営業の基本知識や購買プロセス、クレーム対応等を通して「買い手思考」を学ぶ。	2前 18	1	○					○				○	
47		○	考える力を伸ばす	故人の思いを形にする楽しさややりがいを感じる。	1前 20	1		○				○				○	
48		○	アサーションとチームワークを学ぶ	チーム活動を通して、ハウレンソウの大切さや組織の仕組みなどを学ぶ。	1後 30	1		○								○	
49		○	RESASを活用した地域分析を学ぶⅠ	地域が抱える課題や取り組みを知り、将来目指す姿を想像する力を身につける。	1前 20	1	○	△				○	○			○	
50		○	RESASを活用した地域分析を学ぶⅡ	地域が抱える課題や取り組みを知り、将来目指す姿を想像する力を身につける。	1後 30	1	○	△				○	○			○	
51		○	インターンシップ実習Ⅰ	プロの現場を体験しながら業界理解を深め、社会人基礎力を身につける。	1前 30	1				○			○	○		○	
52		○	インターンシップ実習Ⅱ	プロの現場を体験しながら業界理解を深め、社会人基礎力を身につける。	1後 30	1				○			○	○		○	
53		○	インターンシップ実習Ⅲ	プロの現場を体験しながら業界理解を深め、社会人基礎力を身につける。	1後 30	1				○			○	○		○	
54		○	地域貢献活動Ⅰ	地域で取り組んでいる活動を知り、一緒に取り組むことで他者に寄り添い行動する力を育成する。	1後 30	1	△	○			##		○	○		○	
55		○	問題発見・解決力を伸ばす	業界や企業の協力を得て、学習・研究・調査し、オリジナルイベントを企画発表する。	2前 80	3	△	○				○				○	○

56		○	ビジネスに活かすプレゼンテーション力向上	お客様や業界、社会のニーズに合った企画を考え、実践・発表する。	2 後	80	3	△	○		○		○	○	○
57			○	インターンシップⅣ	プロの現場を体験しながら業界理解を深め、社会人基礎力を身につける。	2 前	90	3			○		○	○	○
58	○			地域貢献活動Ⅱ	地域で取り組んでいる活動を知り、一緒に取り組むことで他者に寄り添い行動する力を育成する。	2 前	30	1	△	○		○	○	○	○
59	○			地域貢献活動Ⅲ	地域で取り組んでいる活動を知り、一緒に取り組むことで他者に寄り添い行動する力を育成する。	2 前	30	1	△	○		○	○	○	○
60			○	インターンシップⅤ	プロの現場を体験しながら業界理解を深め、社会人基礎力を身につける。	2 後	90	3			○		○	○	○
合計					62	科目	83 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法					授業期間等	
卒業要件：必修科目および専門必修科目をすべて修得しており、卒業までに62					1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修科目を確認し、選択科目は担当教務に受験希望を期間内に申し					1 学期の授業期間	47 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。